

チェコ語名詞句の機能構造

— F N P (機能的名詞句構成) と
F S P (機能的文構成) のパラレリズム —

本 城 二 郎

0. 序論：チェコ語の類型的特徴と機能構造

チェコ語は、形態類型論的には屈折タイプに属する。名詞句は、支柱語としての名詞が固有の格・数・性カテゴリー表示子により文法機能を付与され、主として名詞を中心とした文法的な一致により形成される限定・修飾構造を示すことから、句内要素配列は、一部可動位置の修飾要素を除き、要素固定語順により特徴付けられる。文は、支柱語としての動詞が固有の法・時制・極性カテゴリー表示子により文法機能を付与され、主として動詞を中心とした結合価により形成される叙述・文型構造を示すことから、文要素配列は、固定位置の前後倚辞を除き、自由語順により特徴付けられる。機能構造論的観点に立てば、文法要素の位置的固定化は、(伝達)機能要素の位置的可変化へと向かい、文法要素の位置的自由化は、(伝達)機能要素の位置的固定化へと向かい、その結果言語現象の多様なバリエントが形成されると考えられる。チェコ語名詞句の場合、修飾要素の名詞前位置固定—前置修飾要素の文法語順—は、I C (イントネーション・センター)による要素(伝達)機能の変更を、後置修飾要素の前置化は鏡像的F S P化語順による(伝達)機能要素位置の固定化—前置化後置修飾要素のF S P化語順—を、それぞれ実現することにより、多様な機能構造のバリエントを現出することになる。他方、チェコ語文の場合、前後倚辞固定位置は狭い選択肢ながら前倚辞代名詞短形の(移動を伴う)長形化および後倚辞前置詞のI C付与により、他の文要素の自由語順はF S P化語順により、それぞれ機能構造の多様性を実現している。本論の目的は、チェコ語名詞句の機能構造が、どのような機能原理およびメカニズムを通じて多様なバリエントを現出するのかを探ることである。

1. チェコ語名詞句の形式的特徴：名詞句要素語順の特徴

チェコ語名詞句は、一部可動の指示語や所有形容詞を除き、その基本語順が[場面限定—現象—提出・存在]関係を表示する[数量決定詞・指示詞—名詞概念部—格数表示子]語順(ゼロ修飾タイプ)により構成される単純名詞句と、[場面限定—現象=属性担い手—提出・存在—属性—詳述]関係を表示する際に、[数量決定詞・指示詞—形容詞—名詞概念部—格数表示子]語順(前置修飾タイプ)または[数量決定詞・指示詞—名詞概

念部－格数表示子－法時制表示子・動詞概念部－動詞補語修飾語】語順（後置修飾タイプ）さらにはバリエントとしての【場面限定－詳述－属性－属性担い手＝現象－提出・存在】関係を表示する【動詞補語修飾語－法時制表示子・動詞概念部－名詞概念部－格数表示子】語順（前置化後置修飾タイプ／鏡像タイプ）により構成される複合名詞句とに分類される。句内要素配列が、一部可動の指示語および所有形容詞を除き、いずれのタイプもかなり一貫した文法語順を実現することから、チェコ語は、同じ特徴を共有する西スラブ語の中でも、極めて統合的な語順を実現していると見なされる。本章では、他のスラブ語との若干の比較を通じ、チェコ語名詞句要素無標語順の形式的特徴を探る。

（注）【場面限定－提出－現象】および【属性担い手－属性－詳述】は、⑩注を参照。

チェコ語名詞句要素の無標語順：

- i . 数量決定詞 *všechen*(全_テ)/*každý*(各_自)/*celý*(~全_体)および指示詞
- ii . 所有形容詞、所有代名詞
- iii . 数詞
- iv . 形容詞：iv a 数量形容詞および性質形容詞 + iv b 類別形容詞 + (iv c 連語名詞)
- v . 名詞
- vi . 後置類別形容詞
- vii . 不一致名詞：vii a 属格 + vii b 斜格

以下に、無標語順と可能なバリエントを列挙し、チェコ語名詞句の形式的構造の分析を試みる。

i ii iii iv a iv b v vi b

① Cz. *Celá naše první dokončená stránková korektura s poznámkami*

（全ての我々の最初の完成済み頁注釈付き校正原稿）

名詞を中心にした統合的修飾要素語順：

v vi vi b

② Cz. *muž pyšný na svého syna* □ 統合的後置要素語順

（自分の息子が自慢の男）

vi b vi v

na svého syna pyšný muž □ 統合的（鏡像的）前置化後置要素語順

**pyšný na svého syna muž* □ 後置要素単純前置の不可

Cz. *Jde o děj, nikoli o z děje vyplynulou vlastnost.* □ 前置詞隣接許可の傾向

<<< o vlastnost vyplynulou z děje.

（注）<はバリエントの派生を、□は注釈を、*は不可を、それぞれ示す。

非統合的（非鏡像的）修飾要素配列：



③ Cz. *nejstarší v Čechách řetězová lávka s kamennou branou* □ 後置要素の義務的前置による一種の

(チェコで最も古い石門付き鎖橋)

伴構造

V Vi Vi b

Cf. P. *cz/owiek bogaty w doświadczenia* □整合的後置要素語順

(経験が豊かな人)



bogaty w doświadczenia cz/owiek □伴構造による非整合的(非鏡像的)前置要素語順の許容

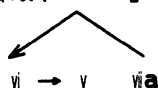
**w doświadczenia bogaty cz/owiek* □後置要素の整合的(鏡像的)前置の不可



ポーランドー東スラブーバルカンスラブ語
的特徴

Ukr. *smišna w svojij zuchval'osti divčyna*

周回語順(Cirkumpozice):



④ Cz. *plný dům dětí* □連語名詞化「子供の家」による周辺の語順 < *dům plný dětí* □中心的語順
(子供で一杯の家)

nejstarsí dům ve městě * *darované knihy knihovnám*

属格名詞要素の後置:

⑤ Cz. *překlad kolektivní monografie do ruštiny* □属格要素の名詞直後後置 チェコ語的特徴
(モノグラフのロシア語への翻訳)

**překlad do ruštiny kolektivní monografie*

属格名詞要素の前置: 口語バリエント

⑥ Cz. *mladého Nováka bratr* /口語/ < *bratr mladého Nováka* /標準文語/
(若い方のノバークの兄)

Cf. Ukr. *serechn'oho zrostu sympatyčnyj junačok* □物の形・色・サイズや人の物理的特徴を表わす前置属格要素
バルトスラブー東スラブ的特徴

(注) / /は対比的特徴を、_____は類型的特徴を、それぞれ示す。

スラブ語の名詞句語順比較は、本城2001においてF S Pの観点から試みられ、更に上記のような観察結果を得た。本論は、ミクロ構造を成す名詞句の伝達場が格・数要素(C N E)を中心とした機能的要素(F N P要素)の機能的構成(F N P)により成立し、同時にそれ全体がモダリティ・時制要素(T M E)を中心とした上位の文の機能的要素(F S P)の一つとなり、文の機能的構成(F S P)を実現する、という立場をとることから、(文に対する名詞句の)階層的関係に基づくチェコ語名詞句の多様な機能構造の分析が可能となるのである。(3章を参照)

2. F P (機能的構成)とそのヒエラルキー

F P (機能的構成)とは、言語の伝達要素がその属する伝達場中で果たす伝達機能に応じて配列される言語構成を意味する。伝達場を形成する層は、名詞句一文一連文という上昇ヒエラルキー関係が確認されている。形式的観点から見れば、これらはマイクロ構造ーメゾ構造ーマクロ構造に対応すると考えられる。(Svoboda(1989)参照)

2. 1. F N P (機能的な名詞句構成)とF S P (機能的文構成)

F N P (機能的な名詞句構成)とは、名詞句要素が名詞句中で果たす伝達機能(F N P機能)に応じて配列される名詞句構成を意味し、無標では修飾要素前置の場合**Th(テマ)ーRh(レマ)ーTr(移行)**語順を、修飾要素後置の場合**Th-Tr-Rh**語順を基本配列とする。名詞句の機能的構成の中心を成すのは、名詞のC N E (格・数カテゴリー表示子)要素で、それが固有に担う**TrPr**(仲介・連結)役割を通じて、名詞句全体は一文要素として文構成に参加することが可能となる。他方、名詞句内の機能的構成の中心を成すのは、名詞の概念内容部分で、それが担う**Tr**(移行)役割を通じて、名詞句内部は要素の機能的結束(つまり**Th-Rh**ネクサス)を可能にしている。F S P (機能的文構成)とは、文要素が文中で果たす伝達機能(F S P機能)に応じて配列される文構成を意味し、無標では**Th-Tr-Rh**語順を基本配列とする。文の機能的構成の中心を成すのは、定動詞のT M E (法・時制カテゴリー表示子)要素で、それが固有に担う**TrPr**(仲介・連結)役割を通じて、文全体は言語外現実と結びつき現実発話となる。他方、文内の機能的構成の中心を成すのは、定動詞の概念内容部分で、それが担う**Tr**(移行)役割を通じて、文内部は要素の機能的結束(**Th-Rh**ネクサス)を可能にしている。複数の名詞句が連結構成することにより形成される連語および複数の文が連結構成することにより形成される連文(複文・重文・重複文など)は、それぞれ前置詞・ ϕ 連結語および接続詞・ ϕ 接続語が固有に担う**TrPr**(連結・移行)役割を通じて、1連語・連文要素として連語・連文構成に参加することが可能となることから、名詞句のF N S構成により特徴づけられることになり、その基本配列は(**ThPr**-)Rh-**TrPr**-RhPrとなる。特異なタイプとしては一語文があるが、それは単純名詞句の一種と見なされ、F N P要素融合の結果、その基本配列は(**ThPr**-)Rh-**Tr**-**TrPr**となることが分かっている。

F N P基本配列：名詞句の修飾要素前置の場合：I. (**ThPr**-)TrPr-DTh-Rh-Tr-**TrPr**

..... 後置の場合：II. (**ThPr**-)DTh-TrPr-Tr-Rh

連語・連文の場合：III. (**ThPr**-)Rh-TrPr-RhPr

一語文の場合：IV. (**ThPr**-)Rh-Tr-**TrPr**

F S P基本配列：述語動詞文：V. **ThPr**-(**ThPro**-)Th-DTh-TrPr-(**TrPro**-)Tr-Rh-RhPr

2. 2. F N PからF S Pへ：F N PとF S Pのパラレリズム

機能的構成の観点に立てば、名詞句は、要素として文のF S P構成に参加する一方、それ自身が下位要素により構成されるF N Pを示す。特に、構成の中心としての連結機能を担う**TrPr(o)**要素に対応する文法カテゴリーの対応関係から、名詞句の格・数表示子

と文の法・時制表示子との機能的一致（つまり機能的 TME ≡ CNE）が観察され、その結果、両者つまり FNP 構成と FSP 構成との間における明確なパラリズムの存在が確認されることになる。解釈語順は、共に **Th-TrPr-Tr-Rh** に代表される機能要素の基本配列を示す一方、実際の無標語順では、チェコ語名詞句の前置修飾の場合 (**Th**【文脈や指示詞など場面限定要素】)-**Rh**【形容詞など概念拡充要素】)-**Tr**【名詞の概念内容】)-**TrPr**【CNE要素】に代表される部分的不整合配列を示し、後置修飾の場合 **Th**【文脈や指示詞付き名詞概念内容など場面限定要素】)-**TrPr**【CNE要素】 (-**Tr**【TME要素】)-**Rh**【名詞句や(副詞句や)形容詞など概念拡充要素】に代表される基本配列を示すのに対して、チェコ文は **Th**【指示詞や代名詞など場面限定要素】)-**TrPr**【TME要素】)-**Tr**【動詞の概念内容】)-**Rh**【名詞句や副詞句など概念拡充要素】と一貫した基本配列を示すことが大きな特徴である。

⑦ **Černý kabát jsem si koupil už před rokem.**

(黒いコートは、すでに1年前に買いました。)

Černý kabát jsem si koupil už před rokem.
(Rh Tr-TrPr) **DTh** **ThPr** **Th** **Tr-TrPr** **TrPro** **Rh**(TrPr Tr-TrPr)
CNE:主格単数 **TME**:過去平叙 **CE**前置詞 **CNE**:具格単数

(注) 破線・実線・二重線によるアンダーラインは、それぞれ **Th**要素・**Tr**要素・**Rh**要素を表わす。以下、議論に必要な場合のみに用いる。機能要素の表示については、半角縮小文字が名詞句要素に、半角文字が文要素に、それぞれ対応する。

名詞句 **Černý kabát** は、その CNE（ここでは主格単数カテゴリー）が担う FNP 機能 **TrPr** の連結機能を通じて FSP 機能 **DTh** を担う文要素となる。その **DTh** 要素は、文の TME（ここでは過去平叙のカテゴリー）を除く動詞概念部分（ここでは **koupil** の語幹部分 **koupi-**）が担う FSP 機能 **Tr** によって **Rh** 要素（ここでは **před rokem**）と連結されることになる。TME（ここでは **koupil** の語尾 **-l**）は、それが担う FSP 機能 **TrPr** を通じて、それを除く文部分（つまり文概念内容部分または命題部分）を、話者を含む言語外現実へと結びつけ、その結果、文が現実発話として成立するのである。

チェコ語は、文要素の主要語順原理が FSP 原理であり、文位置が FSP 機能を持つという FSP 化語順により特徴づけられる。従って、例えばこの場合のように、名詞句文要素が文頭に来る場合にはテーマ機能を与えられ **Th** 要素となるが、文末に来る場合にはレマ機能を担う **Rh** 要素となる。他方、名詞句要素の主要語順原理が文法原理であり、主に文法機能により名詞句内要素の位置が決定され、FNP 原理は主に修正原理としての役割を持つ。その反面、若干の名詞句内要素移動を可能にするバリエントも存在し、そこに関与的な主要原理が FNP 原理となる。

拡大名詞句の FNP :

⑧ **kabát** **jsem si koupil už před rokem.**
Rh=Tr-TrPr **DTh** **ThPr** **Th** **Tr-TrPr** **TrPro** **Rh**(TrPr Tr-TrPr)
Všechny tyto otcovy černé kabáty (これら全ての父の黒いコートは)

TrPr ThPr DTh Rh ... NE拡充要素:数量決定詞

Všechny tyto moje černé kabáty visící na balkóně (バルコニーに掛けてあるこれ

TrPr Rh 全ての父の黒いコートは)

鏡像的配列による名詞句内要素移動:後置修飾要素前置の例

⑨ na balkóně visící černý kabát < Černý kabát visící na balkóně

Rh Tr-TrPr DTh DTh Tr-TrPr Rh 弱TME要素

⑩ ANGLICKÁ nominální fráze < nominální fráze anglická < anglická nominální fráze

RhPr DTh-TrPr DTh(<Tr)-TrPr RhPr RhPr Tr1 Tr2-TrPr
レマ強調 感情的IC CNE要素 テーマ化

3. チェコ語名詞句のFNP

チェコ語名詞句は、(前・後置の形容詞・分詞・名詞・前置詞句などの)修飾要素を欠き専ら(指示語・所有形容詞・数量詞・数詞などの)前置限定要素のみの付加を許容する単純名詞句と、何らかの修飾要素付加が義務的な複合名詞句とに類別される。両者のFNP基本配列は、2章のI、IIタイプに纏めたが、後置修飾要素のFSP基本配列志向および前置修飾要素の鏡像的配列(つまりFSP基本配列の逆行配列)志向により特徴づけられる。以下に、単純名詞句、複合名詞句、名詞句欠如形式としての副詞・副詞句、名詞句拡張形式としての重・複文、それぞれのFNP構成が、如何なる傾向的特徴を持つのかを、多様な具体例の詳細な観察を通じて検証し、チェコ語名詞句の機能的構成の特徴付けを試みる。

3. 1. 単純名詞句のFNP

チェコ語単純名詞句は、前置限定要素がかなり固定した文法語順を示すことから、その機能的構成は、一部指示詞や所有形容詞や数詞などへのIC付加によるレマ化の可能性を除き、多くのバリエーションを許容しない。(文法語順については、1章冒頭のチェコ語名詞句要素の無標語順を参照)

単純名詞句の機能構造:

⑪ To děvče (その少女を/は)

DTh Rh=Tr-TrPr

děvče (少女を/は) (jsme už mnoho let neviděli.) (もう何年も見ない。)

DTh(Rh=Tr-TrPr)

ThPr

Th

Rh=Tr-TrPr

Ta děvčata (その少女達を/は)

TME:過去・平叙

DTh Rh=Tr-TrPr

CNE:(中性・)対格・複数

děvčata (少女達を/は)

φ Jana (ヤンを/は)

ThPr Rh=Tr-TrPr

文脈 **CNE:(男性・)対格 単数<主格はJan**

φ **Nábytek** (家具を/は)

ThPr Rh=Tr-TrPr

CNE:(男性・)対格 単数

3. 2. 複合名詞句のFNP

チェコ語複合名詞句は、後置修飾要素がFSP基本配列を前置修飾要素が鏡像的配列を示すことから、その機能的構成は、一部句頭固定位置の所有形容詞や数量詞などへのIC付加が不可であることを除き、比較的多くのバリエントを許容する。(文法語順については1章冒頭の**チェコ語名詞句要素の無標語順**を、バリエントについては2. 2. **拡大名詞句のFNP**を、それぞれ参照)

複合名詞句の機能構造:

⑫ **to děvče stojící na rohu** (街角に立っているその少女)

to děvče stojící na rohu

[場面限定 提出(+)-現象=属性担い手 φ 属性 詳述]

提出スケール+ 属性スケールの融合スケール

Th | TrPr - Tr TrPr - Tr | Rh

指示詞 **CNE**要素 名詞概念部分 **TME**要素 動詞概念部分 動詞概念拡張子(目的語名詞/副詞的名詞など)

テーマ領域

移行領域

レーマ領域

(注) **提出スケール**[場面限定-提出-存在-現象] および **属性スケール**[属性担い手-属性-詳述]の詳細については、本城2001を参照。いわゆる解釈語順としての文脈独立意味スケールを言う。最上位のFSP決定要因である文脈が働かない条件下では、最下位の線条性つまり語順を第二位の意味要素・関係が決定するという考え方で、**Firbas(1992)**に源を求めることができる。

複合名詞句化のプロセスにおける機能構造の変化:

複合名詞句のFNP: 単純名詞句:



前置修飾複合名詞句:

後置修飾複合名詞句:

⑬ **ta hezká studentka** (その美しい~)

ta studentka na rohu (街角のその~)

Th Rh Tr-TrPr

Th Tr-TrPr (Tr) Rh

nějaká hezká studentka (ある美しい~)

ta studentka stojící na rohu

TrPr Rh Tr-TrPr

(街角に立っているその~)

Th Tr-TrPr Tr-TrPr Rh

jedna naše hezká vysokoškolská studentka

ta studentka, která stála na rohu

(我校の美しい女子大生の一人)

(街角に立っていたその女子学生)

TrPr DTh Rh Tr1 Tr2-TrPr Th Tr-TrPr Rh (Th Tr-TrPr Rh)

..... vysokoškolačka (女子大生)

Tr-TrPr

複合名詞句化のFNP：前置詞付名詞句の場合 (Svoboda(1989)p.114より引用)

⑭ (Otevřel to) nožem (ナイフで) (<nůžナイフ+-em:~で [男性不活動体・単数・具格])

(彼はそれを開けた)

RhPr-TrPr

s nožem (~によって) (s+具格:単前置詞:~で/~を用いて)

TrPr

前置詞付単名詞句 □ pomoci nože (~の助けで) (pomoci+属格:複合前置詞:~で/~の助けによって)

TrPr

前置詞付複合名詞句 □ s pomoci nože (~の助けによって) (s pomoci<pomoc:複合前置詞句s+

TrPr TrPr>Tr □ 群前置詞的 s pomoci pomoc:助け/助力 [女性・単数])

za pomoci nože (~の助けのために) (za:~のため+属格)

TrPr Tr-Tr

□ 連語化Tr要素

za použit í nože (~の使用のために) (použit í:使用 [中性・単数・属格])

TrPr Tr-Tr

多重名詞句のFNP：

名詞句役割の文を連結する接続詞は、後続名詞句の格表示を通じて先行名詞句との連結を担う前置詞(CE)および名詞句全体の数表示のみを担う数量詞(NE)の両者が持つ機能役割を同時共有することから、TrPr要素と見なされる。詳細は、3.4を参照。

3.3. 名詞句欠如形式(副詞・副詞句)のFNP：弱化CNEが中心の伝達場

名詞句のFNPは、通常の完全形式つまり本来の名詞句の場合には、TrPr要素の連結・仲介機能が十分に発揮され、それに対応するCNE要素は限定・中和される(つまり硬直化される)ことなく、形式的可変性を保持する。それに対して、非完全形式つまり副詞や副詞句の場合には、TrPr要素の十分な連結・仲介機能が欠如し、対応するCNE要素は弱化つまり格の限定化および数の中和化へと向かうことになる。文のFSP構成におけるTrPr役割の(TME表示子としての)繫辞を欠く述語形容詞が、定動詞の概念内容部分に相当するTr役割しか持たず、限定形容詞化して名詞と結びつく傾向があるのと同様の関係が、副詞(句)の場合にも当てはまる。つまり、名詞句のFNP構成におけるTrPr役割の(CNE表示子としての)格・数語尾を弱化させた名詞(句)が、名詞の概念内容部分に相当するTr役割しか持たず、副詞(句)化して動詞と結びつくのである。

(前置詞付)名詞句の欠如形式としての副詞(句)：

⑮ s velkou pravděpodobn-ost-í (Je) pravděpobobné (že sem přijde zítra.)

(最も見込があることに)

(彼は、明日ここへ来る可能性がある。)

TrPr Rh

Tr-Pr

TrPr Tr

名詞句概念内容 CNE

TME 述語概念内容

↓ CNEの弱体化:格の固定化&数の中和 ↓ TMEの欠如:法・時制の消失

pravděpodobn-ě (sem přijde zítra.) φ pravděpodobný (příchod na zítřek)

(恐らく／たぶん) (明日ここへ来る。) (可能性のある) (明日の到着)

Rh=Tr-Pr

TrPr Tr

概念内容 CNE

TME 概念内容

v příštím dni 単数・前置格 (次の数日)

v příštím dni (翌日)

↓ CE(格)要素の変更・拡張・弱体化およびNE(数)要素の中和の可能性

TrPr Rh Tr-Pr

CE:前置格支配前置詞 CNE:前置格・複数

příští den 対格 / příštího dne 属格 (次の日／翌日)

v příštích dnech

// Cf. na štěstí den+s_b(その) smuten 形容詞的名詞

(次の数日)

(幸運で)

(その日に)

(悲しいこと)

↓ NE(数)要素の中和化+CE(格)要素の単一化

↓

↓

↓

příště 副詞 < příští 形容詞 ⊃ smutně の類推 naštěstí dnes smutně 単数・位格

(次回)

(運良く)

(今日)

(悲しいことに)

příšt-ě (<*přist(<přichod 来ること/到来)の位格)

Rh=Tr-Pr ⊃ 弱体化CNE

(注) ↓ は変化のプロセスを、薄字は弱要素を、それぞれ示す。

3. 4. 名詞句拡張形式 (重名詞句・重複文等) の FNP : CNE 接続詞が中心の伝達場
複数の名詞句および複数の文の連結により形成される拡張形式としての連語 (または重
名詞句) および連文 (または重文・複文) の機能的構成は、名詞句役割の文を連結する
ことを本来の役割とする接続詞が担う TrPr 役割により特徴付けることができる。3. 2.
ですすでに触れたように、専ら後続名詞句の格表示により先行名詞句との連結役割を果た
す前置詞固有の格要素および名詞句の数表示を担う数量詞固有の数要素の両機能役割を
同時に持つものが、接続詞と見なされることになる。この場合、被連結要素としての連
語および連文の一方は、もう一方と共に、接続詞により提示される現象として Rh 要素を
構成し、先行する一方が Rh 要素、後の一方が RhPr 要素と解釈される。Th 要素の存在につ
いては、明示的でないことから、文脈が ThPr 要素と見なされることになる。

重名詞句の FNP :

⑩ Před několika lety Karel a jeho manželka přišli k nám.

(数年前に、カレルと妻は我が家にやって来ました。)

Rh TrPr RhPr ⊃ NE 要素としての等位接続詞 (~と~) : 異質現象複数性と格同一性の表示子

重文の FNP :

Karel a jeho manželka přišli k nám, a proto se mohli pozdrávit.

(カレルと妻は、我が家にやって来たので挨拶を交わせたのです。)

Rh TrPr RhPr NE要素等位接続詞(それ故)

複文のFN P:

⑩ Že přišli k nám, mi ani ve snu nenapadlo.

(彼らが我が家にやって来るとは、夢にも思わなかった。)

(TrPr Rh) DTh ThPr TrPro Rh=Tr-TrPr NE要素としての従位接続詞(〜ということ): 文の構表示子

重複文のFN P:

⑩ Já si myslím, že přišli k nám, a proto se mohli pozdrávit.

(彼らが我が家にやって来たから挨拶が交わせたのだ、と思います。)

DTh Tr-TrPr Rh(TrPr1 Rh TrPr2 RhPr)

PE要素接続詞 NE要素接続詞

4. 結論

チェコ語名詞句の機能構造は、他のスラブ語との比較(1章)および多様なバリエーションの具体例分析(3章)から、以下の3つの傾向により特徴付けることが可能である。

- i. 前置修飾要素および前置化後置修飾要素は、Th役割要素を除き、西スラブ語の中でもかなり一貫したFSP鏡像語順を実現している。
- ii. 副詞(句)の機能構造は、形式的同形の名詞句CNE要素が担う名詞的TrPr役割の欠如性によって規定され、その結果動詞Tr/TrPrとの連結を志向する。
- iii. 連語(文)の機能構造は、接続詞に内在するCNEカテゴリーが担う名詞的TrPr役割の拡張使用および一部MEカテゴリーが担う動詞的TrPr役割の残存により規定され、その結果名詞Trとの連結-連語-および動詞Trとの連結-連文-を志向する。

参考文献:

Běličová H. & L. Uhlířová (1996): *Slovanská věta (Slavic sentences)*, euro-slavica:Praha.

Firbas, J. (1992): *Functional sentence perspective in spoken and written communication*, Cambridge University Press:Cambridge.

本城2001: 「チェコ語における主観的モダリティのFSP構造-第3統語面(話者態度の言語層)設定の可能性」、*Ars Linguistica* Vol. 8.

Siewierska, A. (ed.) (1998): *Constituent Order in the Languages of Europe*, Mouton de Gruyter:Berlin-New York.

SCC: *Skladba češtiny pro cizince (Czech Syntax for Foreigners)* edited by P. Karlil and A. Svoboda, Rekrát UJEP:Brno, 1982.

Svoboda, A. (1989): *Kapitoly z funkční syntaxe (Chapters from Functional Syntax)*, SPN:Praha.